

前衛画家の大きな冒険

瑛九

2004年8月10日(火)ー9月20日(月)

- 主催／渋谷区立松濤美術館 ●協力／宮崎県立美術館
- 開館時間／午前9時～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日／8月16日(月)・23日(月)・30日(月)・9月6日(月)・13日(月)
- 入館料／一般300円(240円)・小中学生100円(80円)

※()内は10名以上の団体料金※65歳以上の方および障害者の方は無料※土曜日は小中学生無料

協賛出品:

フォト・エッセイ《瑛九逝く》

写真／文 玉井瑞夫

講演会 8月22日(日) 午後2時より

「瑛九と私と“田園”」 講師：加藤南枝氏

渋谷区立松濤美術館

THE SHOTO MUSEUM OF ART

東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421
JR渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭神泉駅下車徒歩5分

《瑛九氏》玉井瑞夫フォト・エッセイ「瑛九逝く」より

瑛九

あの絵を外に出して、
森のように囲み、その中にぼくはいたい

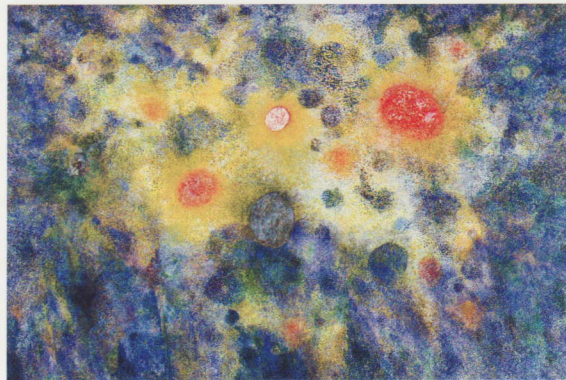
瑛九（1911-1960）は、もう立ち上がることのできない病床でつぶやいたといえます。そして48才の短い生涯を閉じました。

強烈なオリジナリティと前衛性を貫いた瑛九は、亡くなる直前にはアトリエにあって点描による油彩画に没入しました。光の中から生れ出たような精神性の深い世界です。

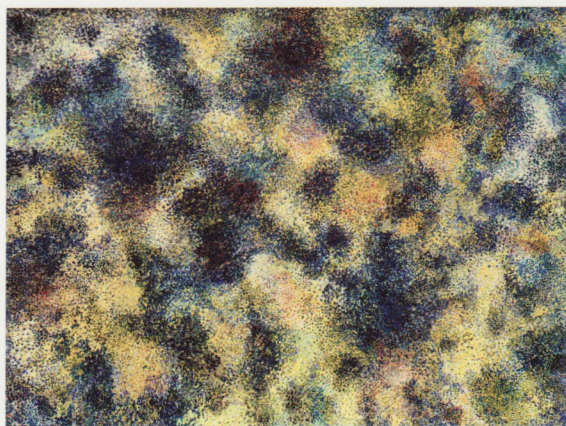
戦後美術の中にあって、デモクラート美術家協会の活動や膨大な数を残したフォトデッサン、銅版画・リトグラフの制作からはなれ、原点回帰とも言えるそれらの制作は、「油絵のヒミツ」を見つけた彼の芸術のとどくことができた極めて高い到達点でした。その最晩年の3年間に焦点をあて、点描の作品とそれに近づいていった軌跡をたどります。

「僕は平凡な毎日が、精神の上で大きな冒険とスリルの世界です」と言う瑛九の最後の世界を、彼を援助していた人々との往復書簡なども紹介しながらみてゆきます。

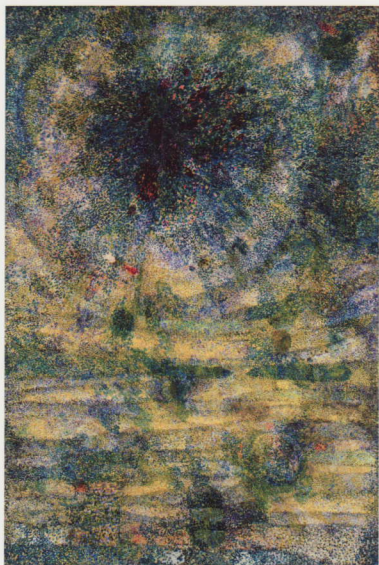
写真家玉井瑞夫の、瑛九を凝視したフォト・エッセイ『瑛九逝く』31点の作品も併せて展示します。



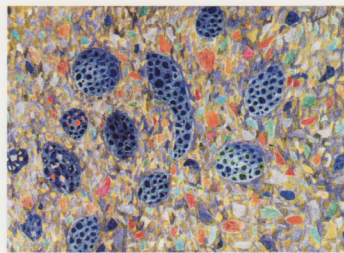
田園 B 1959年 宮崎県立美術館蔵



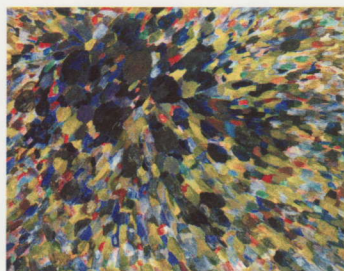
群 1958年 宮崎県立美術館蔵



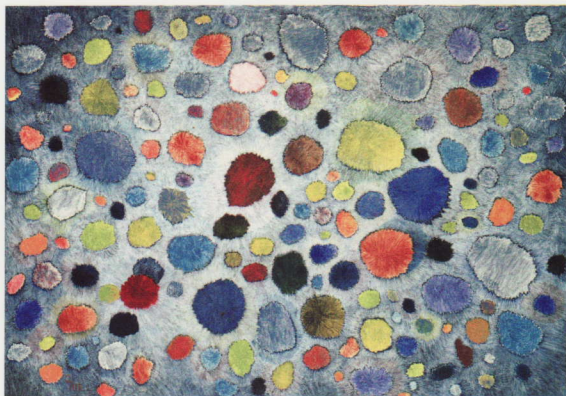
田園 1959年 個人蔵



ながれ 1957年 宮崎県立美術館蔵



嵐 1958年 宮崎県立美術館蔵



飛びちる花びら 1958年 宮崎県立美術館蔵



ブーケ（花束） 1959年 宮崎県立美術館蔵



フォトデッサン集「眠りの理由」 1936年 宮崎県立美術館蔵

■講演会

8月22日（日）午後2時より
「瑛九と私と“田園”」
講師 加藤南枝氏

■ギャラリートーク

8月20日（金）午後2時より
9月10日（金）午後2時より
展覧会担当芸員

■美術映画会

8月15日（日）午後2時より
〈毎日世界美術館〉自然への情熱
〈世界・美の旅〉ティツィアーノ
ーヴェネチアの巨匠ー
9月12日（日）午後2時より
〈毎日世界美術館〉レアリスムの挑戦
〈世界・美の旅〉レンブラント
ー光と影の自画像ー

■美術相談

8月14日（土）午後2時より
講師 廣畑正剛（洋画）
舟橋淳司（水彩画）
9月11日（土）午後2時より
講師 佐久間公憲（洋画）
新出紀久雄（水彩画）



JR 渋谷駅下車徒歩 15 分
京王井の頭線神泉駅下車徒歩 5 分

渋谷区立松濤美術館
THE SHOTO MUSEUM OF ART
東京都渋谷区松濤2-14-14 TEL 03-3465-9421
JR渋谷駅下車徒歩15分、京王井の頭線神泉駅下車徒歩5分

協賛出品

フォト・エッセイ
《瑛九逝く》

写真／文 玉井瑞夫

《瑛九夫妻》1952年 個人蔵

